

写真1 折り紙にして提示した例

具体的な基礎・基本については、次のように考えて指導に当たった。  
 ア 大きな声で文が読める。  
 イ 書いてあることが何かわかる。  
 ウ 読んで思ったことを発表できる。  
 エ 話の筋をまとめられる。  
 オ 想像しながら読める。  
 カ 言葉の意味がわかる。  
 キ よい表現を書き写せる。  
 ク 工夫した読み方ができる。  
 絵の提示(写真1・2参照)によって場面や様子が容易に想像でき、筋をしっかりとらえ、深く読み取ることができた。また、授業のパターンがわかり、進んで学習ができるようになった。文章をよく読み、どこにどのような表現で書かれているのかを素速く見つけられるようになった。

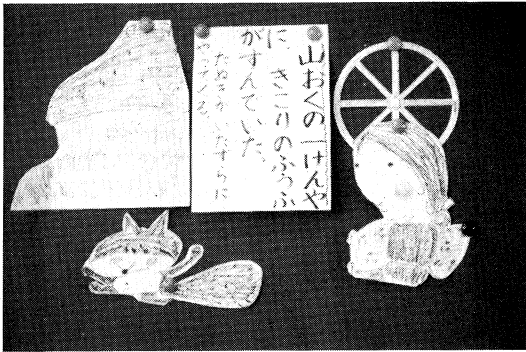
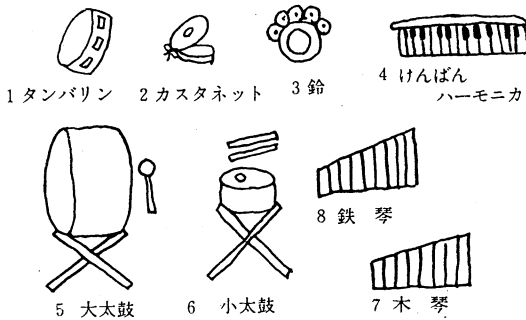


写真2 ペーパーサートも活用した例

図2 キラキラ星のときのローテーション



音読については、地域独自のイントネーションがなかなか直らなかつた。  
 (二) 音楽

効果的な練習方法を工夫して、できる楽しさを味わわせる指導

表1 基礎・基本の具体的例

A. 表現領域	
第一学年	
ア	○聴唱で歌う。 ・リズムや音程を正しく模唱する。
イ	○リズム感覚を高める。 ・拍の流れを感じながらリズムを表現する。
ウ	○曲想表現の工夫をする。 ・リズムの動きや歌詞の内容にふさわしい演奏をする。
エ	○きれいな歌声に気づいて歌う。 ・自分の声を聞きながら、どならないで歌う。
オ	○楽器に親しみ、演奏技能を身につける。 ・ハーモニカ、打楽器の演奏に慣れる。
カ	○即興表現の楽しさを味わう。 ・楽しくリズム遊びやふし遊びをする。
キ	○和声の美しさを味わえる素地を育てる。 ・互いの音や伴奏をよく聴いて演奏する。

B. 鑑賞領域

第一学年	
ア	○音楽の流れにとけこみ、楽曲の気分浸って聴く。 ・音楽に合わせて主旋律を口ずさんだり、体を動かしたりする。
イ	○曲想を感じ取る能力の素地を育てる。 ・リズム、旋律、速さの特徴を感じとる。
ウ	○楽曲の仕組みを理解する素地を育てる。 ・楽曲の主な旋律を感じとる。
エ	○楽器の音色に対する興味や関心を育てる。 ・いろいろな楽器の音色に気をつけて聴く。

楽しい音楽学習のために、

○ 曲に対するイメージを高める工夫  
 ○ 練習の場の工夫と指示内容の精選  
 ○ 興味・関心のある資料提示の工夫  
 について考えた。また、基本的な授業パターンや指導計画も工夫した。  
 一学年音楽科の具体的な基礎・基本

の内容は表1のようにおさえた。  
 飽きずに、しかも指示に素速く反応させるために工夫した楽器のローテーション(図2参照)は、回を重ねるごとに効果が上がり、時間を有効に使って練習ができるようになった。また、休み時間にも練習し、互いに聞き合える自信と美しい音を聞く耳が育った。

(三) 社会

仕事や施設などに興味を持たせる資料を活用して、日常生活を観察したり表現したりさせる指導

ふだん経験していることでも、言葉で明確に説明できなかったり、実態をよくとらえられなかったりしている面を、自作資料(写真3 図3参照)で補って観察・表現させていけば、それが児童とどのようにかわっているのか気づかせることができると考えた。